

## 平成30年度 地域における初期日本語教育モデル事業

専門機関の協力を得て、地域のボランティアの日本語教室と連携した初期日本語教育の愛知モデル(あいち初期日本語教育プログラム)をつくり、地域での外国人受入れのための社会インフラ整備を目指すため、モデル的に一宮市で初期日本語教室を開催するとともに、そのための教材作成と人材育成を実施。  
(文化庁委託事業)

<H30.10.6はじめての日本語教室>



### ・「はじめての日本語教室」

実施回数 10月から2月まで、20回

参加者 来日して間がなく、日本語がほとんど分からない外国人県民20名程度  
(国籍・在留資格を問わない)

内 容 日本語の専門家による、簡単な日常会話や文字を学習するためのカリキュラム(64時間)

### ・「初期日本語教育向け指導者養成講座」

実施回数 9月から1月まで、6回

参加者 地域の日本語教室において初期日本語教育を行う意志のある人20名程度(国籍を問わない)

内 容 日本語教育のための専門性と地域や外国人の状況等に関する知識等を習得するためのカリキュラム(30時間)

### ・「はじめての日本語教室」で使用する教材の作成

## 「はじめての日本語教室」実施結果

場所: 一宮市向山公民館、一宮スポーツ文化センター

受講者数: 27人 (国籍内訳 中国2人、ブラジル3人、ベトナム4人、ネパール1人、  
フィリピン7人、インド1人、カンボジア8人、日本1人)

### ■開催の様子(第1回)

【自己紹介】自分の名前や出身地、自分が一日に何をやるかなどについて、グループや全員との会話を通して伝える練習をした。

### 【その他のテーマ】

食べ物、出身地と旅行、  
休みの日・休暇、買い物、年中行事など



↑①テーブル内で  
会話の練習



↑②全員と会話し、  
伝える練習

## 「初期日本語教育向け指導者養成講座」実施結果

受講者数:23人

(うち、受講証明書交付者 20名)

場所:一宮市向山公民館

主な内容:

第1回～第3回 一宮市の外国人の状況、  
「はじめての日本語」基礎知識、  
地域における日本語教育、初期日本語教室(対話型)に  
ついての座学及びワークショップ

第4回～第6回 初期日本語教室での実地研修を踏まえたワークショップ



## 学習教材「地域における初期日本語教育モデル事業『はじめての日本語教室』」

- 日本語の分からない外国人が、地域の人と関係が作れるようになることに重点を置き、対話を通してあいさつや自己紹介等ができ、日常生活の簡単な表現を理解し話すことができるようになるための教材。
- マニュアルと教材集(ワークシート、ふりかえりシート)により構成。

マニュアルを参考にしながら、地域の日本語教室等で御活用ください！

～県のWebページに掲載中～  
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kyozai-hajimete-nihongo.html>

